



人形で日本工芸展に入選  
伊藤 三枝さん(78)  
朝日町二丁目

## 詩情を感じてもらえるように

このほど、第五十二回日本伝統工芸展の人形部門で入選を果たした。作品の題は「みのり」で、高さが三十三センチの木彫木目込み人形。ほおかぶりをして、手にサツマイモを持った着物姿の農婦をかたどった作品だ。

「今年も入選の知らせを聞き、ほっとしました。製作には四月ほどかかりましたが、特に服地の色にこだわったんです。派手過ぎることなく、しかも地味ではないように。平和で豊かな情景を感じてもらえるよう工夫しました」



戦中、飛行機の部品工場をしていた家に育ったが、戦後は子ども向けの人形を作るようになる。後に、新聞で創作人形の仕事

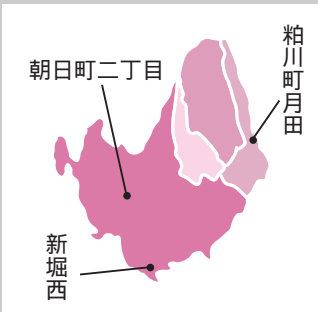
品を見て興味を持ち、この道を目指すようになったという。

「三十五歳のとき、東京の作家のもとに入門。当時は新幹線もなかったので通うのは大変でした。あまり作品展などへは出していなかったのですが、七十歳になってから、活動の仕上げと思ってお品を続けています」

二年前に日本工芸会の正会員に選ばれ、現在に至る。「見て本当によかったと思ってもらえる人形作りを心掛けています。詩情あふれる作品ができるには、より深く自分を見つめ理解することが大事。そのためにも、八年前から短歌の教室で学んでいるんです。素晴らしい師に出会い、家族の理解もあって、ここまで健康で続けてこられたことにとても幸せを感じています」と、柔らかな笑顔をほころばせた。

# ふれあい広場

情報をお寄せください。市役所市政発信課 890-6642へ。



## 交流深め 祭り盛大に

下川淵地区

新堀西自治会では八月二十七日、第五回サマーフェスティバルを開催。ヨーヨー釣り、綿菓子などの露店や子どもだんべえなどを行い交流を深めました。ペットボトルロケットの打ち上げには小中学生四十人が参加。空気を利用し、水を吹き出して勢いよく飛び出すロケットの発射は大成功。打ち上げことに



歓声が上がっていました。迫稔自治会長は「六年前にできた自治会でこの祭りがメイン行事。これを核に住民の親ほくを深め、町を盛り上げていきたいです」と話していました。

## まちのニュース

### 六百年の伝統 月田のさら

柏川地区



柏川町月田の近戸神社で秋季祭が行われました。「さら」として知られるこの獅子舞は、県の重要無形民俗文化財に指定。室町時代の文献にも記され、六百年以上の伝統を誇ります。青年の笛と壮年の歌に合わせ、少年が獅子を舞いました。神社や元氣ランド近くの外宮で何度も舞が披露され、川に酒を流す神事も行われました。夕方の獅子舞は一頭の雌を二頭の雄で争う踊り。取り巻く観客の輪に二頭の雄が飛び込むと大歓声です。祭りは夜遅くまでにぎわっていました。